

---

# バカたちの温泉旅行

SHIN

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカたちの温泉旅行

### 【Zコード】

N6404V

### 【作者名】

SHIN

### 【あらすじ】

幸運？にも温泉団体チケットをあててしまつた雄一  
そんな訳でいつものメンバーで温泉に行くことになった  
温泉旅行ではいったいなにが起ころのか？？

連載のつもりが短編になつてしまつていたのでもう一度投稿しました

## ある金曜日（前書き）

作者の頭は色々残念な上文章力が皆無なので色々悲惨な部分があるとおもいます。

一応明久×姫路にしたいと思つています。

駄文になること間違ひなしですがよろしくお願ひします！  
すいません手違えで短編になってしまつていました（汗）  
本当は連載のつもりです。

## ある金曜日

隠してもどうせすぐ翔子にばれちまつ……  
いつなつたらあいつらも巻き込んでやる

（金曜日の放課後）

「明久温泉に行かないか？」

「……雄二浮気は許さない」

「ぐああああ」

霧島さんは雄二アイアンクローラーを決めていても絵になるな  
とつそんなことよつ

「雄二僕にそんなお金がないこと知ってるよね？」

「その点なり問題ない昨日くじ引きで団体温泉チケットが当たった  
んだ」

雄二アイアンクローラーをされながらしゃべれるなんてやられなれてる  
ね・・・

あつなんか霧島さんから黒いオーラーみたいなのが見える

「……どうして私を誘ってくれないの？」

「翔子落ち着け団体と言つてさああああ

「本当に霧島さんは雄一ー筋だね」

「明久くんやつぱり坂本くんと・・・」

「なに言つてゐる姫路さんぽくはけやんと異性につて美波僕の肘は  
そつこにな曲がらないよおおおおお」

バキュさよならぱくの右肘

「全くおまらはいつも騒がしいのハ」

「・・・撮影のじやいや何でもない」パシャパシャ

「ムツシローーくんそんなんに女の子の『真を撮りたいなら僕がモテ  
ルになつてあげよーか?』

「・・・自惚れるなおまえには興味ない」

「やつか残念だねせつかく今日はスペツツをはいてないのに」チラツ

ブシャアアアアア

「全くおまらはおまらでよつ飽きんのつ  
して雄一ーよ団体と言つておつたが何人まで行けるのじや?」

「8人までだから」といふメンバードいいだり

「雄一そんな勝手に決めたらダメだよ。姫路さんは大丈夫?」

「はい私は大丈夫です」

「／＼／＼／それはよかつた」  
やばいあの笑顔は直視できない

「ウチも大丈夫よ」

「ワシも今週は部活がないから大丈夫じゃ」

「・・・問題ない」

「僕も大丈夫だよ」

「よし決まりだな

じゃあ俺の家に明日の朝8時に集合で大丈夫か？」

「ん~僕は場所がわからないからムツツリーー君案内お願ひね」

「クリ

「・・・明日[.]に7時集合で大丈夫か？」

「うん大丈夫だよ」

「明日遅れたら置いていくから遅刻するなよ特に明久

「大丈夫だよ」

「それならいいじゃあもう今日は帰るか明久いつものように頼んだぞ」

「了解」

（帰り道）

明久 side

清涼祭の事件以来姫路さんと一緒に帰ってるけどこの時間はとつてもいやされるや

「明久くん温泉楽しみですね」

「うんとっても楽しみだよ」

「明久くんはよく温泉とか行くんですか？」

「昔はよく行つたけど最近は行つてないかな」

「そうなんですか

実は私温泉初めてなんですよ」

「えっそつなのーー？」

「はいだからどんな物を持つて行けばいいかわからなくて」

「それなら大丈夫だよ

着替えさえあれば何とかなるよ後は自分の好きな物を持ってくるだけいいよ

「わかりました」

「荷物は結構な量になるからぼくでよければ荷物運び手伝おうか？」

「そんなの悪いですよ」

「気にしなくていいよ。せめてこんなことしかできなから」

「……そんな」とありませんよ」

「「あん姫路さんよく聞こえなかつたよ」

「気にしないでください  
えつどじやあお願ひしてもいいですか?」

「もちろん」

「お願いします  
じゃあ私もちなので」

「家まで送らなくて大丈夫?」

「すぐそこなので大丈夫ですよ」

「じゃあ明日は7時30分にこの場所でいい?」

「はい明久くん遅刻しちゃダメですよ」

「任せてまた明日ね姫路さん」

そうこうしてぼくは歩き出した  
まって今考えて見たらぼくとっても大胆だった!?  
やばい顔が赤くなってきた気がする

・・・まあいつか大好きな姫路さんと一緒にいれる時間が増えたんだから  
そつと決まつたら今日は早く寝よ

side out

姫路 side

私の密かな楽しみ

それはわかれた後の明久くんの背中を見つめること  
さつき明久くんはこんなことしか出来ないなんて言つてましたがそ  
んなことありませんよ

明久くんは私に色々な大事なものをくれていますよ  
私はそんな明久くんが大好きです

この思いを伝えたら明久くんはどうしますか?

もしかしたら距離を置かれちゃうかもしれませんね  
でもいつかこの気持ちを伝えますから待つていてくださいね

いつもして夜は更けていった

## ある金曜日（後書き）

我ながらぐれやぐれやですねはい……………  
こんな文章につきあつていただきあつがヒーヒーもこまく。  
感想などお待ちせしております。

道中（前書き）

更新遅くなりました

## 道中

明久 side

午前4時

しまった昨日調子にのって早く寝過ぎちゃった  
どうしよう全く眠れる気がしない  
しょうがないから荷物の確認でもしどうかな  
着替え よーし

タオル よーし

お菓子 買うお金が・・・

トランプ よーし

・  
・  
・

AED 一応持つて行つておこう  
うーん荷物整理も終わっちゃった

午前6時

だいぶ早いけど集合場所に行っちゃおつかな  
ここにいたらまた眠っちゃいそうだじ

そうしてぼくは出発した

明久 side out

姫路 side

午前2時

どうしましょう

わくわくしそぎて眠れません

荷物の準備もさつきしましたし…

こうなつたら明久くんのために料理でも作って行きましょう  
朝と言つたらやつぱりおにぎりですよね

確かお米がなかつたので炊かないといけませんね

まず洗剤を入れてつと

後はかき混ぜるだけですね

ジャージヤリジャリ

次は中の具ですね

定番は鮭ですけどいありきたり過ぎるので

鉄分をとつてもらつために鉄を入れてそこに硫黄を混ぜて

暖かくして食べてもらいましょう

あれ確かにこら辺に硫黄があつたはずです

ガサゴサ

おかしいですねこつちでしたつけ?

あつありましたちょっととしかありません…

しかたありませんね

これを入れて鮭と一緒に炒めて完成です

さて反応が終わる前に包んで…これでいいですね

午前6時

だいぶ早いですけど出発しましょう

そういうつて私は出発したのです

（集合場所）

あそこを曲がった到着だね

「うわっ」

「わやっ」

「「あつすいません大丈夫ですか？」」

この声は

「姫路さん」

「明久くん」

「姫路さんまだ集合時間じゃないよね？」

「はい

明久くん」「そりんなに早くどうしたんですか？」

「実は楽しみすぎて眠が覚めちゃったんだよ」

「私もです」

「でも2人して困ったね

雄二がこんな朝早くに起きてるわけないし・・・」

「そうですね

じゃあ私は起しちゃったんでおにぎりを作ってきたん」「よし雄二の家に行こう」で…わかりましたそうしましょ「う

今姫路さんが悲しんでるよう見えたけど・・・

「姫路さんは悪いけど今は自分の命が大事だーー！」

「おっやつと積極的になつたか」

「そうですもつとグイグイいきなさい」

「なんで天使と悪魔のぼくがしゃべってるんだひつー」

姫路さんの手

それを引っ張つているぼくの手

真っ赤な顔の姫路さん

「うーうーうーうーん姫路さん」

手を離すぼく

少しがつかりする姫路さん

「いいけない」のままじやまた手をとつひやつ

「そつそつだ荷物を持つよ」

「ブツブツ」

「姫路さん？」

「えつあつはー」

「どうしたの？大丈夫？」

「大丈夫です

それより明久くんどうしたんですか？」

「荷物持とつか？」

「そんなに量がないので大丈夫ですよ」

そういうて姫路さんは歩き出した

今雑談をしている最中だ

「姫路さん見てカナブンが

つてじうしたの姫路さん」

ボクノウデニヤワラカイモノガアタツテル

「すいません飛んでる虫は苦手なんです」

「そそそそなんだ」

頑張るんだぼくの理性

「重い・・・ですよね」

「そんなことないよ」

「重かつたら言つてくださいね」

ちょっと待つてください

もしかして私すぐ大胆なことします?

「姫路さん顔が真っ赤だけど大丈夫?」

まあぼくも真っ赤だと思うけど……

もしかしたら熱かもしれないし

「大丈夫ですよ

明久くんも真っ赤ですけど大丈夫ですか？」  
もし私と同じ理由ならうれしいです

「ううこれは…気にしないで

それよりも姫路さんちょっとは落ち着けた？」

「はい

ですけどこの格好落ち着くのでもうちょっとのままでもいいですか？」

「／＼／＼もつもちろんんだよ」

姫路さんの上目遣いかわい…！

このまま襲っちゃつてもいいかな？

って

「それじゃただのけだものじゃないかああああ

「…明久くんどうしたんですか！？」

「うめん出来たら気にしないで…」

「そうですか

わかりました」

「ありがとう助かるよ」

「そんな

とにかく明久くん坂本くんの家はあとどれくらいなんですか？」

「んーだいたい10分ぐらいかな」

「そうなんですか」

この幸せな時間はあと10分で…

「行く姫路さん」

「はー」

そうしてぼくらは雄一の家に向けて歩き始めた

## 道中（後書き）

こんな駄文を読んでいただき誠にありがとうございました。  
ネタがまとまりず、こんなぐだぐだになってしましました。  
次からはもうちょっと早く更新したいと思います。

だめ出しなどお願いします。

## 道中 part 2 (前書き)

まあなん感想ありがとうござります。

## 道中 part2

午前6：30

「早く着きすぎちゃったかな」

にして待つといつかな

ただ待ってるだけじゃつまらないから隠れて驚かしちゃえ  
そつと決まれば隠れる場所は・・・

「・・・工藤すまない待たせた」

「！…！…ムツムツツリーーー君！？」

急に話しかけられたからびっくりしたじゃない

本当は隠れようとしたからだけね

「・・・すまないそんなつもりはなかつた

「それより来るの早いね～」

「・・・たまたま早く田が覚めただけ」

サツ

「なんで田をむけたの！？」

もしかしてこの服そんなに似合ってない

せっかくちゃんとした服着てきたのに・・・・・・

「・・・そんなことないとしても似合つていい／＼／＼／＼

／＼／＼ほんとに」

すひーじうれしー

「・・・」んなとこりで嘘をついても仕方ない」

「ありがと ムツツリーーー君もその服似合つてるよ」

「・・・ちょっと照れる」

「やひそろ坂本君の家に向かわない?」

「・・・せひじよひ

きつ氣まずい

この空氣はいつたいなに!?

だいたい今日の僕はおかしいよ

妙にそわそわしてると早く起きちゃうしつもなら  
実はムツツリーーー君がスカート大好きって言つてたから着てきたんだよ

もちろんスペツツなしでね

ぐらーは言つてるはずなのに

相手がムツツリーーー君だからかな・・・

きつとなんだよね

うん悩んでもしようがない頑張つていつも通りに  
「ムツツリーーー君実はね」

「・・・?」

「今日スペツツはいてないんだ」

タラツ

「・・・俺は騙されない」

「ほんとだよ」

チラツ

ブヤアアアア

「・・・我が人生一片の悔いなし」

グテ

「ムツツリー二君大丈夫！？」

「・・・問題ないただの高血圧」

「それ絶対ダメな高血圧だよね  
つていうか高血圧で鼻血が出るのー!?」  
まさかほんとに見えちゃつた

「ムツツリー二君何色だった?」

「・・・白」

「やつぱり見えたんだ」

「・・・見ていない

そもそもお前に興味はない」

このセリフ前にも言われた気がする・・・

「・・・工藤ビビったんだ?」

そんな泣きそうな顔をされたら悲しい

「『めん

なんでもないよ

ただやつぱり僕なんかに興味はないんだなって思つて

そうだよね僕なんか・・・

「・・・そんなことはない

「え? ?」

「・・・俺はお前に興味津々だ――――――

「――――――

「・・・もつ少しで着く行け!」

「うん」

この旅行で何かあればうれしいなムツツリーー君・・・いや康太君と

## 道中 part2（後書き）

思つてた以上にぐだぐだになつてしましました。  
すいません。

これからも更新頑張るのでよろしくお願ひします。  
感想、アドバイスお願いします。

## 雄一家にて（前書き）

大暴投さんアドバイスありがとうございます。  
またこんな小説をお気に入り登録していくだされている皆様ありがとうございます。

これからも応援よろしくお願いします。

ではどうぞ

## 雄一家のことで

「やつと着こたね」

「アリみたいですね」

「やあどうして雄一を起いれつか」

「やつぱついろんな時間に起きるのは坂本くんに悪いので、あんまり公園で（ひよつ翔子なんぞ）起きてはいけない」

「起きる必要はないやつだね」

「はー・・・・」

「じゅあ入つたやう」

「アリですね」

ピンポン

「・・・・・どうり様ですか?」

「あつ霧島さん吉井です」

ガチャ

「・・・・・こうしゃこ吉井と號す」

「翔子ひやさんおはよう」やこおもす

「朝早くに邪魔して」「めぐね」

「……大丈夫雄一もさつき起きたといい」

「といいで霧島さんはどうやつて言えに入ったの?」

「……御母様にもひらつたから」

「うー」とは・・・毎田雄一を起しにへ

「……? もひらん」

「姫路さんいつもおしゃべりがいるへ

「はい。

実はちよつと材料が足りなくて、中身が入ってるのが一つしかない  
んですね」

「どれかわかる?」

「一番暖かいものなのでこれです」

「ありがとね、姫路さん。

立ち食いは行儀が悪いから雄一の部屋で食べてくれるね

「……後でお茶を持って行く

「気を遣わせりやつて」「めぐね

「・・・氣にしなくていい」

明久 side

待つてろ雄一

毎朝霧島さんに起してもらひてこるなんて妬ましい

「やあ雄一朝から叫んじゃ、家の人に迷惑でしょ？」

「いや初めは色々言われたが最近慣れてきやがった」

「やうなんだ。

きつとなにも食べてないと思つたから差し入れ持つてきてあげたよ  
これで地獄に墮ちる

「明久にしては氣が利くじゃねえか」

「こつもだい」

早く食べろ

「じゃあ遠慮なくもらひや」

「じりじりじり」

「暖かいな。

中身が鮭である味があるのに食感が「ココココして飲みにく」  
口テツ

「雄一?・・・雄一しつかりするんだー!」

「いは・・・」

「雄一帰つてこれでよかつた  
AED持つてきて本当によかつた

「明久てめえなにを食べさせやがつた?」

「ほくたちをこんなに出来るのは一つしかないでしょ?」

「・・・お茶を持つてきた」

「あらがと」

「」

「霧島をこうちそうわま。  
じやあほくはこれで」

「おい明久てめえ待ちやがれ」

「みんなが集まつたら呼ぶから雄一をようじくね」

「・・・わかった」

明久 side out

「明久くんおにぎりをひだした?」

「おこしかつたよ」

具なしのせはね

「よかつたです」

「明久30分前に来るなんばじつしたのじやへ」

「たまたま早く起きたやつて」

「アキつじぱざわくわくすがでて皿がためられたんでしょへ..」

「うひじばれたの?」

「だつてアキは単純じやない」

「ひじこよ美波」

「うわ~みんな早いね~」

「ムッシローー!」藤お主らも早くの」

「それよりムッシローー顔が赤い気がするんだけど大丈夫」

「・・・問題ない」

「愛子ちゃんも赤い気が」

「―――氣のせいだよ」

「やつじぱざわくわくすがでて皿がためられたんでしょへ..」

夜しつかり話してもうこまづから

「だからなんにもないってばーー。」

「やけに騒がしい」と思つたら、やつぱりそれってたのか

「雄一その縄はなに?」

「明久そのことについてはふれないとへくれ・・・」

「雄一苦労してるんだね」

「坂本くそどりやつて行くんですか?」

「リリにバスがきてくれる」と云なつてこる

「それはありがたいの。」  
して雄一「座席はどうするの。じゅ？」

「公平にべじ引きで決めよ。」

「ルールはどうあるの?」

「箱の中に1~4の数字を書いた紙を入れて引いていいたらいいだ  
ら」

「「「「「「解です」「」「」「」「」「」」」

2 雄一、霧島さん

3 秀吉、ムツツリーーー

4 ぼく、姫路さん

神様ありがとー

「アキ、隣が瑞希だからって変なことを教えるんじゃないわよ」

「もつもちりんだよ」

「瑞希ちゃんは僕たちと違つて大きいからね」

ブシャアアアア

「全くお主もあきんの！」

「アキまさかそんなことかんがえてたの？」

「美波後ろに変なオーラーがつてぼくの腕はもしかしてまだまがらない  
いいい」

このやつどりはバスが来るまで続いた・・・

**雄一家にて（後書き）**

まだ本題に行つてない気が・・・  
きっともうすぐ行くと思つのでお願ひします。

感想、アドバイスお願いします。

## バス 前編（前書き）

澪桜音さん、唐笠さん感想ありがとうございます。  
PV3500、ユニーク1000を突破しました。  
こんなすごい数字が出るなんて思つてもいなかつたのでとてもうれ  
しいです。  
ではじめ

## バス 前編

「煩惱退散煩惱退散煩惱退散・・・・・・」

「明久くんどうしたんですか?」

「えついや、これは・・・そういう酔いにならない為のおまじないだ  
よ」

「変わったおまじないですな」

「ははは」

神様、あなたからは悪意しかんじられません・・・・

だってなぜこんなに密着しているのですか?

（数分前）

「ねえ、なんだかこのイス狭くない?」

「そんなことねえだろ」

「ワシリのところも狭くないぞい」

「ウチ達のところもよ」

「じゃあもしかして僕たちのところだけ・・・・

「そり・・・みたいですね」

「そりそと座れ。

じゃねえどバスが出発しねえだろ」

「わかつたよ」

「明久くんお願いしますね」

「ひがうひんやうしけね」

でつ今にいたるけど

想像以上に狭くて

姫路さんが動くたびに姫路さんの髪からいいにおいが・・・  
やばいマジで理性が

「明久くん大丈夫ですか?」

もうダメ

我慢出来ない・・

「じゃなーーーい

これじゃリアルに変態じゃないか!――――――――――――

「――? 明久くん本当にどうしたんですか?」

「うぬせえ

それにお前が変態なのは今に始まつた」とじゃねえだろ」

「やつよアキ、アキは筋金入りの変態でしょ~。」

「それに明久よ、いきなり呟ぶのは変態じやんか」

「……『じつせ変な』ことを考えていた」

「マジシローの変な」とほんとにやばいかり

「……（汗汗）」

「それにしても、みんなしてぼくをバカにするなんてひどいよ」

「吉井君変態なのは否認できないよね？」

「吉井やくもでー?」

「ぼくは変態じやないよーーー！」

「ふーん

この『眞を見てもみんな』ことが言えるのかな？

チラシ

「わつそれはみんなに着せられただけで……」

「まだ否定するんだね。

じゃあ入学式の時のセーラー服は「『めんなさい』。ぼくが悪かったです。」わかれぱいいんだよ」

「アキ入学式のセーラー服つて」

「それは色々あつたんだよ」

「これ以上話を掘り返されたらせば一生懲りとして生きていこなきやならないくなつたやつ・・・」

「それじゃあ吉井君、変態なのを認めるね?」

「はー」

「やつぱつお主はバカじやのい」

「へー秀吉なにか言ひしるのー」

「わざわざの会話をみて思って出したくなるのじや」

「ぼくが変態扱いされる

みんなが肯定する

「ぼくが知りたくない

「藤さんに阻止される  
変態かと聞かれる

はこと答える

・・・・・

「つまつたああああ

「あはははあが吉井君。」

からかい甲斐があるね」「

「へそつト藤さんはかつたね？」

「いや明久さつきのはお前が自ら度壺にはまつていつただけだぞ。  
それに・・・」

「それに？」

「お前は文句なしの変態だ」

「ちがー——う」

「……明久うるさいぞ」

「ムツシリーネまで…? ひどいよ」

「……隣なのに気づかないのか。  
よく見る。

ぼくの隣で姫路さんと寝てる  
ブー

「あつ明久、吐血などしてどうしたのじや」

「ナンデモナイ」

「・・一枚300円」

「買つた！！」

「・・・毎度あつ」

それにしてかわいい寝顔だな  
なんだかぼくも眠くなつてきた  
ダメだせつかくこんな近くで見れるのになん

姫路 side

それじやあ吉井君、変態なのを認めるね？

「はー」

「やつぱつお主はバカじやの！」

「へ？秀吉なにを言つてゐるの？」

「やつぱり明久くんはおもしろいですね。」

「つまつたああああ」

やつぱり明久くんはおもしろいですね。  
私はなにも取り柄がないので  
明久くんの近くにいる資格もありません。  
ですが神様お願いです。  
もつ少しのままでこわせてください

姫路 side out

明久 side

寝ちゃつてたんだ・・・

姫路さんの寝顔があるだけですごく落ち着く  
きつとこれが好きな人と一緒にいられる幸せなんだと思う  
ぼくは頭も悪いし、かつこいいとは言えない・・・

だけど影ながらでいいから好きな人いや愛する人の幸せそうな寝顔  
を守つていきたい

いやもしかしたら姫路さんはそんなことを望んでないのかも・・・  
・・・頭がこんがらがつてきた

難しいことを考えちゃつたからまた眠くなってきた。。。zzz

明久 side out

雄二 side

あいつら幸せそうに寝てやがるな

ほんとにあいつらはお似合いバカップルだな

それに引き替え俺は・・・

確かに俺は翔子のことが・・好きだ

だが翔子は好きだと勘違いしてるだけなんだ

だから俺は翔子の愛を正面から受けることなんてできない  
だが

「翔子起きてるのか?」

「・・・雄二は雄二だからそのままでいい。。。」

「…………」

なんだ寝言か

俺は俺のままでいいか・・・

そうなのかもな

よつは俺の気持ち次第だな  
翔子もうちょっと待つてくれ  
この気持ちに踏ん切りをつけたら  
俺の正直な気持ちを正面から伝える  
だからまだ待つてくれ

雄 | side out

眠れないのじや

ムツツリーニモダウンしとるじ・・・

「おーい誰か起きとらんかのう?~

ブーン

バスが走ってる音しかしないのじや

「誰か頼むから相手してほしーのじやー

## バス 前編（後書き）

秀吉ファンの皆さん秀吉を落ちに使つてしまひすみません（汗）

そしてなかなか現地に着かない・・

このままだと題名詐欺になつてしまひますね（汗）

そうならないよう頑張ります。

感想、アドバイスお願いします。

## バス 後半（前書き）

PV5000突破しました。  
応援ありがとうございます。

これからも頑張るのでよろしくお願いします。

ではどうぞ

## バス 後半

姫路 side

「誰か頼むから相手してほしいのじゃ」

今木下くんの声がしたような・・・  
／＼＼＼＼あああ明久くんの顔がすぐそこへ  
ぞびぞびぞうしましよう

今こじでキスしちゃつてもばれませんよね  
・・・・やつぱりそれはダメですよね  
たとえこれから先、明久くんと一緒にいられるかわからなくとも  
初めてのキスはお互い同意の上でしたいです。  
でもこれぐらいのわがままはやってもいいですよね

口テッ

パシャ

? ? 今何か聞こえたような・・・  
きつと氣のせいですね  
それにもやつぱりすごく落ち着きます ～～～  
きつと明久くんだからなんですね  
安心したらまた ～～～

姫路 side out

「・・・いい写真が撮れた」

「おおムッシュニー よやつと起きあってくれたか」

「……開こからまた寝る」

「そんなこと言わずにのい」

「……人は欲望に忠実な生き物……」

「よく考えると

ベストショットの為だけに起きたのはす」「の

また一人じや……

「運転手さん後どれくらいで着くの？」  
「つか」

「後10分ぐらいなのでお連れの姫さんをそろそろ起にしていただけたらあらがたいです」

「了解したのじゃ

おーい皆の衆やうやう着くべし

「あつ木」「畠田よ、お主もやつと起きたか。」

「実はあんたに言つておかなくちやならなことがあるの」

「へ言つておかなとならん」ととはなんじやへ。

「ウチゅうと起きたの」

「ひらひらひるこじゅや――――――」

「どうした秀吉ひぬれこがわ  
つてなんで畠田なんだ？」

「雄一、そろそろ着ぐのじゅや」

「そつやうか」

「それにもなんで泣きやうなんだ?  
まあこいか

「翔子さん起きる」

「・・・・・雄一まだ眠ー

「寝ぼけたフリをしてから抱きついてすむな

「・・・・・雄一冷たい」

「あれもつ着いたんだ

といふドギつして畠田さんは笑つてゐるのかな?」

「こや、ちよっとね

「・・・(ムク)」

「到着いたしました」

「「「「「あつがとひ」「れこせした」「」「」「」「」

ん？天然バカツプルの声が聞こえてこない  
！！！

明久の肩に姫路がもたれかかって寝てやがる  
こんなのは翔子のやつが見たら・・・

「・・・雄一は吉井を見習つべき」

もう遅かつたか

「翔子あればただ姫路が勝手にもたれてるだけだからな」

「・・・だから私も勝手にもたれてるだけ」

「いや着いたから離れる」

「・・・いや」

「我が儘を言うな！..」

つたくことには

「・・・そんなことより、着いたならこの二人を起こさないとい  
けない」

「さすがに起こすのは気が引けるの」

「僕もちよつとむりかな」

「そんなことを言つていっても始まらないから起しそぞ

「頼んだのじや」「よろしくね」

「翔子起こすから離してくれ」

スツ

「おい明久起きる」

「ンン後ちよつと」

「口答えするんじゃねえ」

「まつもつ着いたの！？」

右肩に不思議な違和感が・・・  
ぼくの肩に姫路さんがもたれかかってる

グハア

かわい／＼＼＼＼

ぼくはこんなおいしい状況で寝てたのか

「顔を赤くしながら落ち込むなんて器用なまねをしてないでさつさ  
と姫路を起こせ」

「えつ！？」

ぼくの顔そんなに赤い／＼＼＼

「真っ赤じゃぞ」

「・・・どうせ見とれてた（100円で今の写真を追加する）」

「そんなことないよ（よひしづく）」

「・・・（毎度あり）」

「明久俺たちは荷物を下ろしておくから頼んだぞ」

「なるべく早く行くよ  
あもつたいたいけど起きてなことね

「姫路さん着いたからもうそろ起きて」

「ணணṇもうちゅいたんですか？」

ちゅういた？

「姫路さんもしかして寝ぼけてる？」

「ணணணそななことありましょんよ」

「じやあ降りようか

姫路さんがぼくにだっこのポーズをしてくる

「姫路さんいつたいぼくになこを求めているの？」

「明久くんだつ」一

「そそそそなこと出来ないよ」

「そな」としたらほんとには理性がなくなつちゅう

「やつぱり私が重いから出来ないんですね・・・・」

「そんなことないよ

姫路さんは太つてないから大丈夫だよ」

「じゃあどうしてなんですか?」

正直泣き顔の上田遣いは卑怯だと思つ

「わかつたよ姫路さん」

頑張るんだぼくの理性

これは頼まれたからであつて他意はないはず・・・

「明久、荷物を出し終わつたんだがまだ・・・  
おつお邪魔しました――」

「雄一誤解だよ」

「安心しろ明久。

俺はなにも見てねえ――！」

「違つんだ――――――」

「――明久くんどうしたんですか?」

「あつ姫路さんやつと起きてくれたんだね。  
それより着いたよ」

「やうなんですか」

「みんなもう先に降りちゃったから早くこい」

「もしかして明久くんは私を起しますため？」・・・

「ぼくも今起きたといふなんだよ」

「じゃあどうして眞矢さんが先に降りたって知ってるんですか？」

「ううそれは・・・」

「フフ明久くんありがとうございます」

「」

「――なんでお礼なんかするの？」

「気にしないでいいですよ」

「これは私の気持ちなので

「わっわかったよ」

「では早く行きました」

「やうだね」

「やうと温泉にたどり着いた

## バス 後半（後書き）

やつと旅館に着きました・・・  
本題？に入るのが遅くてすいません。

感想、アドバイスお願いします。

## 船岡山の旅（福島）

龍児さん感想あつがむいじやれこまか。

やつと旅館に着きました。

お腹へりんどういへん

「大きいね～」

「本当に大きいですね」

「荷物を持ってさつさと入るぞ」

「ほら早くしないとおひいていくわよ」

「みんな待つてよ～」

「当然だけど中も広いのね」

「それでね。

美波の胸と違つてぼくの腕があらぬ方向に曲がつてゐるううう「ひうう」

「アキあんたつて人は――――」

ガキッ

ドタドタ

「今すゞい悲鳴と音が聞こえたのですが大丈夫ですか！？」

「ああ大丈夫です。」

『坂本にしなこでくだせ』

「アハセウですか・・・」

「予約をしていた坂本なんですが」

「アハでしたか。

よつじやこらつしゃこました。

女将の原田と申します」

「アハらの坊ちやまはもつ大丈夫で、それこあつか?」

「こつもの」となんで坂にしないでくだせ』

「は』

「アハらのお嬢さんも照れ隠しにしては過激過ぎますよ』

「ヒツ照れ隠しなんかじやあつませんーーー』

「わふわド』やれこましたか

ではお部屋に』案内致しますね』

ゾロゾロ

「ねえ雄二、部屋割りはどうあるの?』

「5人部屋を2つ借りたから男女でわかれたらいいだろ。』

ちゅうど4人ずつになるからな」「

「雄一なにを言つてるんだ！  
3人と5人じゃないか！！」

「雄一のであつとるじやないか」

「えつ！？」

だつて女部屋は姫路さん、美波、霧島さん、上藤さん、秀吉じやな  
「ちょっと待つのじや」どうしたの、秀吉」

「最後にワシの名前をいれんかったか？」

「だつて秀吉は女の子でしょ？」

「ワシは男じや……

じやから一緒に風呂も入るし朝は同じ部屋で着替え「ブシャアアア  
アアアア」るのじや？

さつき鼻血が出る音が聞こえた気がするんじやが……」

「ムツツツツー———大丈夫か傷は浅いぞ」

「・・・我が人生に一片の悔いなし」

そんなにいい笑顔で言われたらすゞくまるんだけどね

「なぜ鼻血ができるのじやー！」

「・・・・雄一の前で着替えたら許さない」

「木下くんはもつと自分の魅力を自覚するべきですか」

「だからワシは男じゃと言つておるわ」

「あはははは

やつぱりいつも楽しそうだね。

それはそうとマッシュリー君一緒に着替えたいのなら僕に言つてくれたらいいのに」

ブシャアアアアアア

「マッシュリー…………大丈夫か傷は浅いぞ」

「…………これはただの車酔い」

マッシュリー今さう車酔いはないと思つよ……

「…………愛子ちょっと顔が赤い」

「…………そんなことないよ」

せつかく恥ずかしさを我慢して言つたのにばれるなんて

「愛子ちゃんそんなに恥ずかしがらなくともいいですよ。  
土屋くんも愛子ちゃんだから喜んでるんですよ」

「…………そんな事実は存在しない」

「土屋あんたもそろそろ素直にならなさいよ」

「…………（ブンブンブン）」

「・・・・愛子そんなに落ち込まなくていい」

「落ち込んでないよ。  
いつも通りだよ」

ジト一

「そんな田で見ないでよ。

ほら部屋に着いたみたいだよ」

「ヤレの血を噴いて倒れた子は大丈夫なんですか?」

「こつもの」となんでも気にしないでください」

「・・・（パンパンパン）」

「いいまで否定出来るのさ」「こと悪ひよ

「それならこいんですけど  
では氣を取り直して、

「この2つが坂本様」一行のお部屋になつておつまむ」

「「「「「「「ありがとうございます」「」「」「」「」「」「」「」

「晩御飯はその電話で〇〇〇番にかけていただければ一時間ほど  
で御用意させていただきます。  
ほかになにか質問はありますか?」

「お風呂は何時まで開いているんですか?」

「こつでも」利用いただけます。

他の施設のご案内はそこの机の上にある冊子を「覗ください。  
あと浴衣を1人1着ずつ用意しておつますのよしければ」利用  
ください」

「ありがとうございます」

「じゃあもうね」と

はあやつと温泉に入れるよ

## 部屋江戸案内～（後書き）

温泉になかなか入れない・・・

これからもがんばりますので応援よろしくお願いします。

感想、アドバイスお願い致します。

## 温泉の定番は卓球だよね（前書き）

唐笠さん感想ありがとうござります。

温泉に入ると思っていたのですが  
卓球のこと思いついてしまったので  
今回は卓球？をしてもらいました。

ひとつづつアドバイス

## 温泉の定番は卓球だよね

「・・・早くのや・・いや早く風呂に入りたい」

まったくムッシリーーは・・・

「そうだねムッシリーー! さうと決まればはやく・・・

「アーキーまさかとは思うけど強化合宿のときお仕置きが足りなかつたのかしり?」

「そうですよ、明久くん。

またお仕置きが必要なんですか?」

「いえいえ結構です」

2人とも顔は笑ってるのに目が笑ってないよ

「お主は懲りんのや。

ところで雄一よ、なにを見ておるのじや?」

「ああ温泉のほかにどんな施設があるか見てたんだ」

「どんなものがあつたんじや?」

「卓球場・トレーニングルーム・ゲームセンター色々あるや

「雄一、卓球が出来るならお風呂上がりのジュースをかけて勝負しようね」

「いいだろ。」

「その勝負のつてやる」

「返り討ちにしてやるよ  
みんなはどうするの？」

「ワシも参加しようかの

「ウチもやるわよ

「・・・雄一が行くなら私も行く

「僕も行こうかな~」

「・・・俺も参加する」

「私も参加してもいいですか?」

「もちろんだよ、姫路さん  
そんなうれしことははないよ

「よしなら卓球のあとそのまま風呂に入つたらいいだろ

「ひだり」「はこ（うこ）」「」「」「」「

「じやあ女子はあっちの部屋で準備をしてまたこの部屋にきてくれ

「浴衣があるんだしみんなで着よつよ」

「うつ 浴衣ですか・・・

浴衣は太つてるのがばれちゃいます

「・・・わかった」

「ウチもいいわよ」

「浴衣つて体のラインがでちゃいますよね・・・」

「・・・瑞希は大丈夫」

「そつだよ着よつよ。

着たら吉井君もきつと喜ぶよ」

「じゃあ私も着ます」

「みんなも待つてる」とだし早く行こうよ」

見ていくださ「よ明久くん。

私にも運動が出来るところを見せてあげます

姫路 side out

明久 side

「それしても明久。」

卓球の定番と言えば風呂上りだね」

「うん。

だけじゃもじお風呂上りに姫路さんたちが浴衣だったり着いづなると思ひへ。

「そりゃあ

（雄二の想像）

「行きますよ」

「・・・・負けない」

「えい」

「・・・・瑞希は甘い」

ブシャアアアアアアア

「・・・感無量」

（想像終了）

「間違いなくムツツリーーーが信じまつた

「でしょ？」

それにして姫路さんたち遅いね

「女の子はいろいろ準備しないといけないんだが」

「もうじゅぞ明久。

ビーフせなうこの間にルールなど決めておけばどうじゃ？」

「そうだな。

まあ一々点マッチでサーブは3本打つたら交代でいいか？」

「いいよ

コンコン

「・・・來た」

「今できるからちょっと待ってね」

ガチャ

「お待たせ」

「じゃあ行くぞ」

（卓球場）

「ラケットを握るなんて久しぶりだよ」

「そうだな。

とりあえず軽く打ち合つか

「そうだね」

カンカン

「やうひやうこじだひ」

「やうだね」

「カーブはくれてやるよ」

「その余裕すぐこなへこへあがるよ」

「寝言は寝て言へ」

「こべぬ」

ヒコッ ピンキコウをあげる音

シユッ 空振りしたせこで（わざと）ラケットが飛んでいく音

バコ 飛んでいったラケットを雄一がラケットで防いだ音

チツ

「じめんじめん手がすべりやつたよ」

「やうかそれはしようがないな。  
誰にでもあるミスだな。」

さあーーーだ氣を取り直してかかつてーーー

ヒュツ ピンキュウをあげる音

コンコン 雄一の「一ト」に球がいく音

シユツ 雄一が空振りする音

バコ 飛んできたラケットをラケットで防いだ音

「すまん明久。

手がすべっちゃった」

「まつたく雄一はドジだね。

それじゃあいくよ」

「待て明久。

またすべるかも知れないから次は俺が打つてやるわ」

「そんな次は大丈夫だよ」

「いいからよー」せ

「いわむせー」

にらみ合ひぼくら

「あの2人楽しそうだね」

「・・・こつもの」と

「二つぱこ姫こじる」とだしマッジシローー相あつちで僕とやらな  
?」

「・・・手加減はしない

「それでも勝つのは僕だよ」

「それなら島田よ。

ワシらも空こしてるとひうで勝負をせんか?」

「壁むといひや

ムツツリ si de

「・・・いぐれ」

「二つでもいいよ」

カンカン

カンカン

カンカン

「・・・これで8・3」

「ムツツリー二君なかなか強いんだね」  
くつ悔しき

「ママ負けるのは癪に触る  
こつなつたら

「ムツツリーー君実は僕ね今ノーブラなんだ

ブシャアアアアアアア

今のうちに

カンカン

「・・・卑怯な」

「そんなことないよ

「・・・」の程度では負けない

「その強がりいつまで持つかな?」

ムツツリside out

明久たちside

「ねえ雄二! こんな不毛な争いはやめよ

「そうだな。

そろそろ代わるか。

翔子やるか? 「

「・・・私は雄一とペアがいい」

「お前そんな『じゃあほくと姫路わんがペアだね』ってめえ

「姫路わんやれでいい?」

「やつらにす!!

よひしへお願こします」

「・・・瑞希・吉井手加減はしない」

「望むどいろです」

カンカン 霧島さんの打った球が姫路さんのところへくへ音

シコッ 姫路さんがからぶる音

タコンタコン 姫路さんの乳が揺れる効果音

タラッ ポくの鼻から血が出る音

グシャ 雄一が田つぶしを食いついた音

浴衣じやなくてほんとこよかつた・・・  
もし浴衣だったら・・・・・・・」の辺りと並んでる気がしない

「ぐわああああ

「雄」見ちゃダメ」

「せりやうりうじつして当たらなこんですかー?」

明久たちsude out

秀悟 siwa e

「ぐわああああ」

「雄」見ちゃダメ」

「せりやうりうじつして当たらなこんですかー?」

やれやれまた騒こぶるのい

カンカン

いかんいかん今はこの勝負に集中せねば

カンカン

「島田よ、なかなかやるではないか。  
じゃがワシの勝ちじゃな」

11 - 6

「木下、あんた男なんだからかよつとは手加減しなさこよ」

「今お主ワシの」Jを男として扱つてくれたの」

「今のは成り行きよー!?

「そんなこと関係ないのじゃ。

やうとやうと男として扱つてもらえたのじや……」

いや[冗談抜きで]この喜びをわかつてほしいのじゃ

「木下あんたそろそろ本気でやばいわね」

男らしい島田に言われたのじゃから

「ねえ木下」

「なんじや」

「今ウチのこと男らしこそ思わなかつた?」

「そんなことないのじゃ」

なぜわかつたのじや！？

「やつぱんじゆつじゆうじやなこ……」

「なぜじやああああ

ワシの腕があああ

明久 side

「なぜじやあああ」

今秀吉の魂の叫びが聞こえたよね

鼻血をだしながら「藤さんと卓球してたマッチコニー

なぜか美波に関節技をかけられてる秀吉

なつなんだこの状況は！？

「ねえ雄一」

「なんだ？」

「じゃやつたりの状況になると思つへ..」

「…これはなんだ！？」

やつぱりそんな反応になるよね・・・

「雄一これ以上まことにからみんなを呼んで温泉に行こう」

「そつそつだな」

「うして雄一が強制終了してくれたおかげでなんとかこの場は収まつた

そして秀吉

美波のあの技は痛いよね・・・

温泉の定番は卓球だよね（後書き）

スポーツの描写を書くのがとても難しいですね。rzn

こんな駄文ですが頑張っていきます。

感想、アドバイスお願いします。

## これ風呂く（福井県）

唐笠さん感想ありがといひやれこまか。

やつと風呂に入るわけです。

すいじく長かった氣が・・・

でせじいわ

## これ風呂く

「リリが風呂みたいだな」

「・・・私達は「ひひ」

「木下くん行きましたよ」

「ワシは男じゃ・・・

そしてくんをつけながら女の子扱いするなんてこの子の矛盾してお

らんか?」

「確かにやつですね・・

じやあ木下ちゃん行きましたよ」

「わ~この意味じゃないのじやあああああ

なんかこんなやつとりがあつたよつな・・

まさか!?

「見てよ秀吉」

男風呂

秀吉風呂

女風呂

「リリも秀吉を性別として認めているのか!??」

そりゃあ驚くよね・・・

「すこいく複雑な気分なのじや・・・」

「まあ女扱いじやなくてよかつたじやない」

「わづかのう」

「じゅあ風呂から上がつたら晩飯を食べるから駅部屋にきてくれ」

「…………わかった（よ）（わ）（のじや）（わかりました）」「」

男子 side

「旅館とあつてなかなか広いな」

「・・・・」こんな広い風呂は初めて

「こんな種類のお風呂があるんだね」

「どうあれ全部はこいつみるか」

「わづだね」

「わづせ」

「・・・泡風呂」

「簡単に言えれば下から吹きの泡が出てく風呂だ」

「それべらしさすがのぼくでも知ってるよ」

「こいつの間にそんなんに贅へなつてたんだー!?」

「ムキヤアアア」

「・・・騒いでないでとつあえず漫かう」

「もうだな

「なんだか泡がくすぐつたいね」

「もうか?

なんか普カ普カしてて気持ちいじやねえか」

「・・・同意」

「こや気持ちここ」とせこいんだがぼくはもうついてすべつた  
いかな」

この泡があがつてくる感じがちょっとね・・・

「ほんじゅやうべ別の風呂に行へか」

「もうだな」

やつと解放されるよ

ひつ

ぬるま湯

「これってただぬるいだけのお風呂だよね」

「やううだな」

「・・・じうある?」

「せつかくだしもつと珍しきのこしきよ」

「じゃああうちの打たせ湯にでも行くか」

「やうするか。

「・・・賛成

「あーちなみに明久。

打たせ湯についての説明は必要(ないよーー) そりが。  
なら打たせ湯について説明してくれ

「ちよつとまつてね

うたせゆだよね

うたがあるつてことはきつと歌が関係あるでしょ  
そして・・せつて確か背中のはず・・・・・

そつか

「わかつたよ雄二ーー」

これでほくはバカじやないつてことを証明出来る

「答えを聞こつか」

「……どうせ間違い」

「ふふふ甘いよムツツリーーー！」。

歌背湯とは人の背中に歌を歌いながら入るお風呂でしょ（これまでにないドヤ顔）

これでもつまぐのことをバカと言えないだろ

「明久、お前はもついろいろすげえよ」

「……予想してたよりもひどい」

「えー？」

「とつあえず行くぞ」

「ちよつと待つてよ」

「これが打たせ湯だ」

「まさかこれって」

「そうだ明久。

さすがのお前でもわかつただろ」

「お坊さんが修行する場所じゃないかーー！」

「　「はあーー?」」

「違ひのーー?」

「・・・明久、頑張れ」

「なにその応援!ー?」

「まあ気にすんな

「なんなんだよー」

「とつあえず打たれよひよぜ」

「そうだね  
なんか釈然としないけど

「これ気持ちいいね」

「・・・(ハクハク)」

「肩のツボにピンポイントで  
は〜心が安らぐわ〜」

「雄二ー・・なんか壊れてない!ー?」

「私は壊れてなどいませんよ」

「私が読まれた!ー?」

「私に不可能はありません」

打たせ湯恐るべし

「 すゞく気持ちいいですね。  
女の子なんていいでもいいです」

「 マッシュコーヒーあやこで女の子が着替えてるよ  
みゆ」

「 だからどうしたのですか?」

そんなマッシュコーヒーまで

「 せり吉井さんも心を静めましょ」

あっなんだかぎりでもよくへ・・・

数分後

「俺は今までなにをしていたんだー!?」

「・・・すこ」とになつていていた気がする」

打たせ湯恐るべし

「とつあえず他の元に入らひよ

「・・・寝風呂がある」

「やれやせぬそつだな」

「早速行こうよ」

「だな」

「「」の格好は」

「おーい明久?  
なんだ寝ちまつたのか」

「・・・さすがにあぶない

「起いひすのも面倒だしそこの足湯に浸かりながら見張つときもあ  
いだろ」「

「・・・のほせなくてすむ」

「ZZZしました!!

また寝ちゃってた

「やつと起きたか

「・・・待ちわびた

「「」あん」「あん

「まあいいや。

足湯を堪能出来たしな」

「そうなんだ。

じゃあ次は露天風呂に入ろうよ」

「おひいいな」

「・・・女風呂をのぞける場所がない」

そりゃそりでしょ

「露天風呂つてよく猿が一緒に入ってきたりするけどさすがにいな  
いよね」

「そりゃそりだろ」

「ハカラはこるんだけどね（笑）」

「てめえいい度胸だな。

そりいえば勝負がついてなかつたな

「やうだね。

どうやって決める？」

「・・・だつたらサウナで勝負」

「そうするか」

「望むところだよ」

「最後まで残つてたやつの勝ちだぞ」

「了解」  
コクコク

「ムツツリーーー、言い忘れていたが・・・  
隣は女風呂だぞ」

ブシャアアアアアアア

「・・・のぼせただけ。  
先に出て涼んどく」

サウナ組 side

数10分後

「明久そろそろ限界じゃないのか?」

「雄二」田がつっこなってきたよ

「バカ言え。

俺は元々こうだ」

「強がりなんか無駄だよ」

「てめえこそな

ガンのくれあい

サウナ組 side out

ムツツリー＝side

さすがにあの鼻血の量はまずかった  
とりあえずぬるま湯に浸かって休憩だな

数10分後

ぬるま湯も案外気持ちいい  
そもそも出でくると思つんだが・・・  
一応見に行くか

お互いを睨みながら氣を失つてる2人

・・・・

「これはまずいだろおおおお

ムツツリー＝side out

ムツツリー＝が発見してくれた後水風呂に投げ込んでくれたらしく  
ぼくらは助かつた

「ありがとウマツリーハ助かったよ」

「ほんとにな、悪かつたなウマツリー」

「・・・本当に焦った」

「まあそろそろあがつて部屋に戻るか」

「「もうだね（口ク口ク）」」

ぼくたちは部屋に帰つていつた

男子 side out

秀吉 side

秘密なのじや

秀吉 side out

女子 side

「見ちやダメです」

「アハハハハ」

「・・・雄一は私以外見ちやダメ」

「見たいんだつたら見てもいいよ

だだしげれなこよひにね

「せれなこよひにしても覗かせダメですーーー。」

女子 side out

『じゅわいの楽しみだなーー

## これ風呂く（後書き）

すいません。

むか昔しきくなつてしまひました・・・

なんせ女子のお風呂シーンなんて想像出来なかつたのでo\_rz

感想、アドバイスお願いします。

## 風田あがり（前書き）

引っ越しやら

部活やらで更新遅れてしましました。

いつも以上に駄文になってるかも知れませんがどうぞ

## 風呂あがり

「秀吉たち遅いね」

「まあそのうち来るだろ」

ポンポン

「今開けます」

ガチャ

「あつ秀吉」

「すまぬ。

待たせたのじや」

「気にしなくていいよ。

そんなことより中で話がつよ」

「やうじやな

「おー秀吉か。

風呂はどうだった?」

「風呂の種類は凄かつたのじやが、隣からムツツリー二の叫び声が聞こえてきたり、

反対側からは島田の声が聞こえてきて寂しかったのじや・・・」

「それは『メン』ね

「・・・それは悪い」とした

「また後で一緒にに入るか」

「本当かのー?」

今から(・・・雄一、誰と一緒にに入るつて?)すまぬ雄一よ

「翔子待て。

これには深いわけがああああああ

「・・・ほかの人の裸を見るなんて許さない」

「雄一、本当にこりないね  
つていうか霧島さんはいつ来たんだろう?」

「ねえ瑞希、

なんだかお仕置きが必要な人がいる気がするんだけど

「奇遇ですね美波ちゃん、

実は私もそう思つてたんですよ」

「二人ともいつのまに!?

ぼくをどうする気なの??

ちょっと待つて

いやあああああああ

「じゃあムツツリーー君僕たちは後で一緒に入るうか

ブシャアアアアア

「ムツツリーー君どうしたのかな～？  
もしかして僕の裸を想像しちゃったのかな？？」

チラッ

ブシュ

「・・・これはのぼせただけ」

「ムツツリーー今その言訳は辛いぞい。  
そうじや雄一、

晩御飯を頼んでおいたほうがいいかの？」

「頼む」

「・・・・まだ元氣」

「だからとこつて力を強めるなああああ

「了解じゃ。

皆のもの今から電話するからしばし静かにしておいてくれんかの？」

「翔子やつこいつだから離してくれ」

スツ

「・・・・いや」と反省するよつて

「姫路さんたちも頼むよ」

「明久くんもちやんと反省して貰ださこね」

「アキ次やつたらわかつてゐわよね?」

「一ノ瀬

「「はー」」

「では電話するわー」

フルルルル

「はいフロントで、」やることます」

「晩御飯をお願いしたいのですが」

「わかりました。

代表者の指名をお願いします」

「坂本です」

「坂本様ですね?」

「はー」

「ではあと30分ほどでお届けいたします」

「お願ひします」

「では失礼します」

ガチャつ

「あと30分ほどでくるナハヅヤ」

「案外早いんだね」

「やつだな」

「・・・30分なんてあつとこつも」

「ウチはお腹が減つてたから助かるわ」

30分ぐらい経過

□□□

「御飯をお持ちいたしました」

「「「「「「「おつがといひ」それこまか」」」」」」」

「なにかあつたらお電話してください。」

「それでは失礼いたします」

「じゅあ食つか

「ナウだね

「これせどりやつて作るんでしょうか？」

！――！――！

「姫路さんそんなことよつ食べよつよ」

もし作るやわれちやつたら僕たちの命が・・・

「（明久よくやつた）」

やつぱりみんな考えることはこつしちだね

「ナウですね。

冷めなつに食べひここましよ

「ひして無事美味しく」飯を食べるこじが出来た

本当に美味しかつた

## 風田あがり（後書き）

ホントにすいません。

ぐたぐたになつてしまひました。orz

次からはこれまで以上に頑張るので応援よろしくお願いします。

感想、アドバイスもお願いします。

## それぞれの部屋（前書き）

書くじとがまとまります

更新また遅れてしましました。ごめんなさい。

遅くなりましたがどうぞ

## それぞれの部屋

「男部屋へ

姫路さんたちが部屋を移動してから  
みんなで布団を敷いたわけだけど

「眠れない。

ねえ誰か起きてないの?」

グーガーグーガー

「誰も起きてないのか・・・

どうしよう

・・・せつかくだしお風呂にでも行こうかな  
そうしてまくは部屋をでていった

「女部屋へ

「なるほど土屋くんとそんなことが

「もうもう僕寝るね

「・・・・愛子恥ずかしがらなくともここ

「そんなんじゃないよ・

「ただはしゃいで疲れただけだよ」

「瑞希ビーヴィーしたの？」

「へい？」

どうしたんですか？」

「もしかして瑞希ちゃんもなにか隠し事かな~」

「そんな」とあつませんよ。

ちゅうどボーッとしてるので風にあたってきますね」

ガチャヤツ

「いっぢやたね

「…………いやあ私も行つてくれる

「アーティスト？」

「...」雄の心

「じゃあ僕も行こうかな

「二人とも頃亟約ね。

「わくは寝ておへ」

「ねぢる」

「・・・・・めやお」

明久 side

お風呂からあがつて

さつぱりしたのはいいんだけど

「どうしよ・・・」

部屋に戻つても眠れないし

とりあえず外で散歩でもしようかな

そしてぼくは外に向かつた

ぼく（私）の夜は長くなりそうだ（です）

## それぞれの部屋（後書き）

想像以上に短くなってしましました。

いろいろ考えたのですがどれも話がまとまりませんでした。  
自分の才能の無さになきなさを感じました。（泣）

それでも読んでくださって本当に感謝です。  
感想、アドバイスお待ちしております。

張希の想い（前書き）

あれのぐもーー嘗ては感想ありがといひ「JRC」こまつた。

更新の頻度が週一になつてしまふのが・・・  
もつと早くできるようがんばります。

でせじひづる

## 瑞希の想い

明久 side

眠れないからぼくは一人、外で夜空を眺めてた  
「このあとどうしようかな」  
たまにはこんな落ち着いた雰囲気もいいかもしね

クシユクシユ

誰かが落ち葉を踏む音がする・・・  
誰かきたのかな？

そんなことを思いながらその足跡のするほうへ向かつてみた  
姫路さん！？

いや姫路さんがいるのは別に不思議じゃないんだけど  
月光で光ってる涙はなぜ？

とりあえず姫路さんのところに行かなきゃ  
たとえ姫路さんがそんなこと求めていなくとも

明久 side out

姫路 side

「やつぱり外は静かですね」  
今はこの静けさが心地いいです  
皆さんは自分とつりあつた相手といれて幸せものです  
それに比べて私は・・・

「姫路さん、なにがあつたの？」

「あつ明久くん！？」

「びっくりつむぎやつめんね」

「眞にしないでください」

「本当に?」

それならよかつたよ。  
ところで大丈夫?」

「へえりうこうとですか?」

「姫路さんが泣いてるからなにがあつたのかと思つて……」

「えつー?」

なんでばれてるんですかー??

「まくでよかつたら話を聞かせてもらえないかな?」

「えつと・・それは  
さすがに本人の前では

「やうだよね。

ぼくなんかに話しても意味ないよね」

どうしてそんな顔をするんですか?

私は明久くんの悲しそうな顔は見たくなりません  
「そんなことないですよ。

明久くんはいつも頼りがいがありますよ。

ただ・・・

「ただ？」

「これはその私が勝手に悩んでるだけなので」

「ううなんだ。

でも姫路さん、話せば楽になる」ともあるよ」

ああ、この笑顔が私に勇気を与えてくれてるんですね  
「ううですね。

じゃあ明久くん聞いてもらいますか?」

「ぼくでよかつたらいくらでも聞くよ」

「ありがとうございます。

私たち部屋に戻つてから好きな人の話をしていたんですね。  
私以外の皆さんはとっても魅力があると思つたんです。  
ですが私にはそんな魅力はあります（そんなことないよ、姫路さん）  
へ？明久くん？」

「姫路さんには魅力がたくさんあるよ」

「そんなことがありますん！」

私はドジでのろまで体が弱くて・・・」

自分の不甲斐無さに涙が・・・

ギュッ

「／＼／＼あつ明久くんどうしたんですか?  
なんで突然抱きしめてくれたんですか?

「姫路さんいやだつたら言つてね」

「そんな嫌なわけないじゃないですか」

「ありがとつ。

じゃあ「のまおぼくの話を聞いてね」

「はー」

「わつき姫路さんは自分に魅力なんてないなんて言つていたけど…。  
・そんなことないよ。

少なくともぼくは…いやぼくらは姫路さんの魅力を知つてこるよ。  
だからそんな悲しそうな顔で悲しいことを言わないでよ。  
それに姫路さんに魅力がないのならぼくはどうなるの?。  
ぼくは悔しいけどバカだし、雄一みたいに強いわけでもないし」

「そんなことありません!!

明久くんはひとつ優しいです。

それにつも周りを楽しい雰囲気にしてくれます。

それに引き換え私は…」

「ありがとつ、姫路さん。

姫路さんの魅力の一つかのやせしれだよ思つよ」

「なんか」とあります

「これは私の本音です

「それにいつも周りのことを気にかけることが出来るじゃないか」

違います

私はいつも迷惑をかけているので  
それを気にしてるだけなんです

「だから姫路さんぼくはそんな姫路さんが」

「すいません。

明久くん聞こえませんでした」

「いいよ、姫路さん気にしないでぼくの独り言だから

「わかりました」

「いまかすかに大好きって聞こえた気が・・・

「最後に姫路さん。

恋愛は釣り合っているかどうかなんて関係ないとと思うよ。  
もし自分が相手を好きになつたらそれでいいと思うんだ。  
ぼくはバカだからそんなことしか言えないけどそれがぼくの本心だ  
よ」

「そう・・・ですよね」

「励みになつたかどうかわからな」けど元気出してね

「はい。

明久くん最後にお願いがあるんですけど・・・いいですか

「ぼくに出来る」となら何でもするよ」

「ありがとうございます。」

もうすこしこのまでいてください」「もつ少しだけあなたのぬくもりを感じさせていてください

「／＼／＼そんなことでいいならどうぞ」

「ありがとうございます」「

この笑顔に何度も助けられてきたことか

「姫路さん、大丈夫？」

「はい、もう大丈夫です。  
ありがとうございました」

やつぱり私は明久くんを好きになつてよかつたです  
私では釣り合つていなかも知れませんが  
もうそんなこと気にしません

やつぱり私姫路瑞希は吉井明久くんが大好きです

「じゃあそろそろ部屋に戻るつか」

「そうですね」

そして私たち二人は旅館に戻つていきました

シリアスってむずかしい！！

本当に自分の文才のなさを恨むばかりです・・・  
とまあ愚痴はこのぐらいにして

どうでしたでしょうか？

一応明久と瑞希のラブシーンのつもりです  
次は明久視点で書くつもりです。  
そちらももしよければお願いします。

感想、アドバイスお願いします。

## 明久 side (前書き)

唐傘さん感想ありがとうございます。

地文を書き換えただけなので早く更新できました。  
ですので、同じような内容が続いてしまいました。o\_rz  
ではじめ

## 明久 side

明久 side

「姫路さん、なにかあったの？」

「あつ明久くん！？」

「びっくりさせちゃってごめんね」

やつぱり泣いていたんだね

「気にしないでください」

「本当に？」

それならよかつたよ。  
ところで大丈夫？」

「?.どうじか」とですか？」

「姫路さんが泣いてるからなにかあったのかと思つて……」

「えつーー？」

「ぼくでよかつたら話を聞かせてもらえないかな？」

あなたの不安をちょっとでも取り除きたいから

「えつと・・それは」

「やうだよね。

「ほくなんかに話しても意味ないよね」  
やつぱりあなたはそんなことは望んでないんだよね・・・

「そんなことないですよ。

明久くんはいつも頼りがいがありますよ。

ただ・・・

「ただ?」

「これはその私が勝手に悩んでるだけなので」

「そうなんだ。

でも姫路さん、話せば楽になる」ともあるよ

「そうですね。

じゃあ明久くん聞いてもらえますか?」

「ほくでよかつたらいくらでも聞くよ」

姫路さんの泣き顔が消えるならいくらでも

「ありがとうございます。」

私たち部屋に戻つてから好きな人の話をしていたんですね。

私以外の皆さんはとつても魅力があると思ったんですね。

ですが私にはそんな魅力はありま(そんなことないよ、姫路さん)

へ?明久くん?」

「姫路さんには魅力がたくさんあるよ」

あなたはほくと違つてたくさん魅力をもつてているんだからそんなこと言わないでほしい

「そんなことあつません！」

私はドジでのりまで体が弱くて・・・」

やつぱり姫路さんはいつまでも自分に自身が持てないんだね・・・

姫路さんが涙を流しながらうつむいている・・・

どうやつたらいいんだ

そんなことを考えてこらへり

足が勝手に一歩また一歩と姫路さんに近づいていった。

そして・・・

ギュッ

「／＼／＼あつ明久くんどうしたんですか？」

「姫路さんいやだつたら言ひてね

どうしてだらうへ

なぜだか今は「うしてあげるのが姫路さんのためになる気がして

「そんな嫌なわけないじゃないですか」

「ありがとう。

じゃあこのままぼくの話を聞いてね」

「はい」

「さつき姫路さんは自分に魅力なんてないなんて言つていたけど・・・  
・そんなことないよ。

少なくともぼくは・・・いやぼくらは姫路さんの魅力を知つてこるよ。  
だからそんな悲しそうな顔で悲しいことを言わないでよ。

それに姫路さんに魅力がないのならぼくはどうなるのさ？

ぼくは悔しいけどバカだし、雄一みたいに強いわけでもないし

あなたにふさわしいわけがない

「そんなことありません！！

明久くんはとっても優しいです。

それにいつも周りを楽しい雰囲気にしてくれます。

それに引き換え私は・・・」

「ありがとうございます、姫路さん。

姫路さんの魅力の一つはそのやさしさだよと思つ。

それについても周りのことを気にかけることが出来るじゃないか。

だから姫路さんはそんな姫路さんが

ぼくと違つて本物の優しさを持つていて、

みんなのことを見にかけることのできる抱擁力のあるそんな心を持つていて

姫路さんが大好きだよ

「すいません。

明久くん聞こえませんでした」

「ここよ、姫路さん気にしないでぼくの独り言だから」

そう、

聞こえた瞬間に終わつてしまつぼくの勝手な片思いだから

「わかりました」

「最後に姫路さん。

恋愛は釣り合つていいかどうかなんて関係ないとと思うよ。もし自分が相手を好きになつたらそれでいいと思うんだ。ぼくはバカだからそんなことしか言えないけどそれがぼくの本心だよ

そう信じていないとつぶれてしまいそうだから・・・  
だからこれはぼくが自分に言い聞かせていることなんだが  
じやないとぼくはあなたを好きでいる資格すらないから・・・

「そり・・・ですよね」

「励みになつたかどうかわからないけど元気出してね」

「はい。」

明久くん最後にお願いがあるんですけど・・・いいですか

「ほぐに出来ることなら何でもするよ」

「ありがとうございます。」

もつすごいままでいてください」

「――そんなどいでいいならどうぞ」

姫路さんが喜んでくれるなら

それにこうしているとあなたのぬくもりを感じていられるから

「ありがとうございます」

「姫路さん、大丈夫?」

離れてこのぬくもりを手放すのは残念だけど  
ぼくのわがままあなたに迷惑をかけたくないから・・・  
それに

「はい、もう大丈夫です。  
ありがとうございました」

離れればあなたの笑顔を見る」ことができるからいいんだ  
「じゃあやんその後屋に戻りつか」

「そうですね」

やつぱり姫路さんの笑顔は最高だよ  
いつかは伝えたいこの気持ち  
でもまだ言えない  
もしほくに勇気がでたら伝えるからそのときは答えてね

そこから姫路さんを部屋に送つて行つて部屋に戻つていつた

「今日はいい夢が見れそうだな」

明久 side（後書き）

やつぱり難しい・・・

そして読みにくいが・・・

頑張らねば。

こんな読みにくいものを読んでいただきありがとうございます。

もつ少しどラストなので頑張ります。

感想、アドバイスお願いします。

## 結婚での出来事（繪書き）

やーたらん感想ありがといひやれこます。

終わりに向けてがんばつてゐるのですがなぜかせんせんかけないとい  
う・・・

いつも以上にぐだぐだかもです。○  
でぱぢりん

## 部屋での出来事

? ? ? p.i.s.e

「ねえ代表、もし鍵がかかってたらいつするの?」

「……鍵ぐらこすぐ」に開けれど

「さすが代表だね」

「……それより着いた

「ほんとだね」

ガチャ

「あれ鍵が閉まってないみたいだね」

「……手間が省けた」

「じゃあ入ろうか」

「……うん」

「代表はやっぱり坂本君のところに行くの?」

「……もちろん」

「じゃあ僕もマジッキー君のところに行こうかな」

「…………戀子も頑張って」

「あつがとね。

じゃあまた後でね

??.?.s.i.d.e o u t

愛子&マッシュリー—s.i.d.e

「ねえマッシュリーーー起きた的時候いつよ?

僕とお話しでもしようよ」

「・・・・・」

モーリーうなつたら

「ムッシュリー君実は僕ノーブラなんだ」

ブシャアアアア

「やつぱり寝ても反応するんだね」

「・・・・藤井ヒロヒロ・・・」

「特に用事はないんだがどうかとマッシュリー君と一緒にベリたい」と呟つて

「・・・田も覚めたから別にいい

「やつたー

「じゃあ猥談でもある?」

「・・・猥談」

ブシャアアアア

「・・・猥談もしたいがもつと良いことが起つてゐる予感がある。  
すまないが少し行つてくる」

「僕も行つていい?」

「・・・足を引っ張るなよ」

「もううんだよ」

「・・・」

翔子&amp;雄二-side out

翔子&amp;雄二-side out

「 」

「・・・勝手に隣で寝るからいー」

スツ

「つしょ翔子なんでお前にお前がいるんだ」

「・・・夫と寝るのが妻の定め。」

それに今日は旅行だからいつもより長く一緒にいられる

「／＼お前よくもまあそんな恥ずかしいセリフを・・・  
しゃあねえ今日だけだぞ」

「うん」

パシヤパシヤ

「...・マッシュルームのアレ」

「・・・俺に構わず続けてくれ」

「これ以上は何もしねえ。」

そして翔子が「かりするのはやめてくれ」

「ムツギリー、君もハレ付かれたから處してしょ」

「なに工藤もいるのか！？」

「もうだよ。

ブシャアアアア

「つたくなんでお話で鼻血がでるんだよ」

「…………雄一早く寝よ」

「一や寺て羽子。」

「工藤とかが見てるから今日もなしだ」

# 「・・・・雄一の鹽つき。」

こうなつたら実力で一緒に寝て見せる」「

「待てその発言はあああああ  
俺の腕がああああああ  
翔子&amp;雄一 side out

秀吉 side

「・・・・雄一の嘘つき。

「いつなつたら実力で一緒に寝て見せ

「待てその発言はあああああ  
俺の腕がああああああ  
」

「やつねへね眠れにせよのじや。

隣の部屋で寝るとよつかの」

ガチャ

「やつ木下なんであんたが」「や

「やつ木下なんであんたが」「や

「やつ木下なんであんたが」「や

「やつ木下なんであんたが」「や

「やつ木下なんであんたが」「や

「やつ木下なんであんたが」「や

「やつ木下なんであんたが」「や

「やつ木下なんであんたが」「や

それなりこわよ

男の子とじつは見えたとやうに限つて  
ちゅうどくめつちゅうじゅつたじやない

「 」

「 困つたときにはなによこ様よ」

「 」

「 ハジ寝の前ひまといとお話しなさい。」

「 」

「 ふふ、まつぱくじ疲れてるのね。

ねやすみなとこ、秀吉」

そして雄一たちはひまつあへなー田中続いた。

## 部屋での出来事（後書き）

感想、アドバイスお願いします。

## 明久たちの朝（前書き）

更新遅くてすみません。

それではどうぞ

## 明久たちの朝

チュンチュン

明久 side

「これはまだ夢の続きかな？」  
ぼくの隣に姫路さんの寝顔があるなんておかしいはずだ！  
落ち着け落ち着くだぼく

落ち着いて昨日の出来事を思い出すんだ！

（昨日の晩）

「じゃあ姫路さんまた明日ね」

「はー。

吉井くんおやすみなさい」

「おやすみ姫路さん」

こつしてぼくは確か自分の部屋に戻つて行つた  
でも帰つてみると

「・・・・雄一今日」じゃ一緒に寝る」

「待て翔子。

落ち着くんだ！」

ムツツリーーはムツツリーーで

工藤さんと話をしているし

「こんな空間ぼくには入れない！――

そんな時

「…………」

「もしも。」

「どうしたの姫路さん？」

「もしかしたら明久くんが寝る場所がないと思いまして」

「姫路さんよくやんなことわかったね」

「ですから私たちの部屋にきてください」

「こいつてこいつのーー?」

「もううるさいですよ」

「ありがとう。

じゃあ行かしてもううつよ」

「お菓子でも準備して待つてます」

「じゅあまた後でね」

「はー」

「——」

今日はなんてラッキーな日なんだろ？

姫路さんとせらに親密な仲になれたうえに一緒に部屋にこられるな

んて  
「おつと。

「こんな」としてないで早く行かなきゃ」

△△△

「姫路さん入るよ~」

「ビリル

「お邪魔しまーす」

「ちょっと汚いかも知れませんけどビリル

「ありがとう。

それにも姫路さん助かつたよ」

「気にしないで下さい。

それよりも明久くん、飲み物ありますか?」

そう言つてぼくに飲み物を勧めてくる姫路さん  
「じゃあせつかくだしもらつていい?」

「もううんです」

「ありがとね」

「明久くん乾杯しませんか?」

「そうだね、せつかくだしやうつか」

「「カンペーイ」」

「ククク

「のほる苦一い感じは・・・

「これ酒じゃないか！？」

「ちりこますよ、明久くん」

「姫路さんもしかしてすでに酔つてる？」

「ひょんなことあつましえん」

「どうじよつ・・

「これはまづいパターンだ

「明久くん！・・

「はい！？」

「一緒に寝ましょー

ギュッ

「ちゅつちゅつと待つて姫路さん」

「いろいろヤバい」ところが当たつてるんだけど

「待ちません」

やつこいながら押し倒されるまく

女の手に押し倒されるなんてなんて非力なぼく  
つて今はそんなこと考えてる場合ぢゃない

「姫路さん落ち着いて。

それはさすがにまずいって」

スースー

「つて寝ちゃったのか」

まあ疲れただろうからしようがないかな  
あつぼくもなんだか眠くな

～回想終わり～

「ヤバ」とつても恥ずかしい

「あつ明久くんおはよい」やれこれや

「おはよ姫路さん」

ぼくは出来るだけ平常心を保ちながら挨拶をした

ボツ

しづいへりあると姫路さんも思ひ出したらしく顔を真つ赤にしていた

「オハヨーハジツヒの部屋にアキがいるのよー？」

「これには深い事情が

「あれほどひして瑞希と一緒に寝てるのよー。」

「朝っぱらからねやこのじや」

「あれ?

秀吉もこいついたの?..」

「あつちの部屋がうるさくなつたから」ひかり避難させでもうつた  
のじや」

「それは大変だつたね」

「そつじや明久。

まだ時間もあるよつじやし朝風呂にでもいかんか?」

「いいね行こつよ」

「明久くんまさかとは思こますけど一緒にこいつたりなんかしませ  
んよね?」

「もつもちりんだよ」

「また独りでに入るのかの・・・」

「そんな悲しそうな顔しないでよ。

・・・そうだ水着を着たらセーフなんじやない?」

「それならまあ大丈夫ですかね」

「せうね、それじゅあ瑞希あたし達も行わまつよ」

「やうですね」

やうして僕らはお風呂に向かつた

## 明久たちの朝（後書き）

感想、アドバイスお願いします。

旅行は家に帰るまでが旅行です（前書き）

さとうひで

旅行は家に帰るまでが旅行です

坂本夫婦 S·I·D·E

「……雄一もつ朝」

「もうかもう朝だつたか・  
つて翔子俺はいつの間に寝てたんだ!-?」

「……雄一が叫び終わつてから」

「くも疲れ」ときにまけるなんて」

「……疲れてたからしじうがない。  
しかも……」

ボツ

「てめえいつたい何をしたんだ!-?/?」

「……そんなこと言わせるなんて雄一のハッチ」

「本当に何をしたんだ!-?/?」

「……そんなこと恥ずかしくて言えない」

「はあもうこい。

とにかくで明久と秀吉の姿が見えないんだが」

「……私が起きたときにはいなかつた

「まあすぐ帰つてくるだらうからいいか」

「……じゃあ雄一もつ一回一緒に寝よ」

「まず一緒に寝てないからなー!?

ポツ

「ほんとに何をしたんだああああああああああ

坂本夫婦 side out

ムツツリー・愛子 side

「ほんとに何をしたんだああああああああ

ムク

「……まつたく朝からうるさい

なんだ隣に違和感が……!?

「ん」

タラツ

「……この寝顔は反則」

「ん~おせよつづツツリー君」

「……おはよう、よく起れたか?」

「ばつちりだよ。

それより鼻を押されてるけど鼻血は大丈夫?」

「・・・問題ない」

「よかつた」

「／＼／＼心配をかけてすまない。」

それより明久と秀吉がいないようだが

「ああ弟君は女子部屋に行つて、  
吉井君は僕たちがいちゃいちゃ？してたから入れないでどこにい  
つちやつたよ」

「・・・そつかまあいいか。」

そして俺たちは別にいちゃいちゃしてたわけではない

「照れなくていいよ」

「・・・（ブンブン）

それより顔が少し赤いが大丈夫か？」

「／＼／＼大丈夫だよ」

「・・・それならいい」

ムツツリーニ・愛子 side out

明久・秀吉 side

「いい湯じやつたの」

「そうだね」

「やつぱり一人で入るよりいいのじゃ」

「それはよかつたよ」

「部屋に帰つたら帰る準備をやらなきゃならんの」

「やうだね」

ガラッ

「ねえ秀吉の空間に入れぬ。」  
また雄一たちがいちやついてる・・・

「わつワシには無理じや」

「だよね。  
どひじよ」

「おおその声は明久じやねえか。  
頼む助けてくれ」

「・・・・雄一逃がさない」

「霧島さんは本当に一途だね。  
だけどちよつと雄一と話させてくれるかな?」

スツ

「ふう、明久助かつた」

「そんなことはいいよ。

それヨリ一いつ出発するの?」

「そうだな。

もつ少しでチェックアウトの時間だからそろそろ準備はしておいて

くれ

「了解。

じゃあ霧島さんあとはお好きにどうぞ」

「・・・・・やりますの」

「明久てめえなにを」

「わあ秀吉、ほくは帰る準備でもしようつか」

「セツジヤの」

「スルーしてんじやね――――

「しそうがないな。

霧島やーんまたバスで一緒に座るからとりあえず離してあげて

「・・・・・わかった。

雄一続きはまた後で

「続きってなんだー?」

ガラッ

「お、」口に待て。

・・しゃあねえとつあえず帰る血脉をするか

「セウジヤの」

「じゅあ終わつたらロボーテ集合だ」

「」解

～30分後～

「よし全員集まつたな」

「みんな忘れ物はない？」

「」「」「」「」「大丈夫（です）（よ）」「」「」「」

「じゅあバスに乗つて出発だ」

バスの中では行きよりカオスになつてたのは言つまでもない

「到着です」

「」「」「」「」「」「ありがとうございます」「」「」「」「」

「・・・私はこのまま雄一の家にこらへるから」それで

「よしじやあ俺は明久のい（雄）浮気せぬかな（）えこひ行かな  
いじ家でのごびつしょつかな」

「おつたへね主は素直じやないのう」

「ウチはいひちだか」

「ワシも回じ方向じや」

「それじやあ一緒に帰つましゆ」

「ナリジヤの。

では西の山のまた畠田なのじや」

「じやあまた畠田ね」

「ムッシンニー君家まで送つてよ」

「・・・かまわない」

「やつたー」

「・・・また畠田学校で」

「みんなまたね～」

「じやあ姫路をこぼしたも帰つたか」

「はこやつですね」

「じゃあ雄一、霧島ひとと仲良くな

「うぬせえ

「照れなくていいよ。

じゃあまた明日ね

そうして姫路さんの家に着くまでせんぱはたわいのない雑談に花を咲かせた

「じゃあ姫路さんまた明日ね

「あつ明久くん待つてください」

「どうしたの?」

チコッ

「ひひひ姫路さんー?」

「／＼＼＼＼これは相談にのってくれたお礼です。

それじゃあ明久くん、また明日です

愛子ちゃんも積極的になつたことですし私も・・

「／＼＼＼うんそれじゃあね

ついに楽しい旅行も終わっちゃった・・  
まあいいかきっと姫路さんやみんなとなり毎日楽しく過ごせるとから  
また明日から学校がんばろう

旅行は家に帰るまでが旅行です（後書き）

今までありがとうございました。  
こんな駄文に付き合つてください誠にありがとうございました。  
最後までぐだぐだでしたが何とか終わりに向かえることが出来ました。

物語はこれで終わりですが、バカテスとを入れる予定ですのでよう  
しければそちらもお願いします。

## HULLローグ（前書き）

唐笠さん感想ありありがとうございます。

これでいよいよ最後です。  
それではどうぞ

## HΠローグ

### 問題

温泉旅行の感想を述べて下さい。  
ただ全裸などは禁止とします。

土屋君の答え

工藤愛子がかわい・・・いや特になにもなかつた。

先生の「メント  
もつと素直になつてください

工藤さんの答え

みんなと親睦を深めることができました。

先生の「メント

いつもの工藤さんらしくない答えで驚いています。

何度も消した跡があるのとなにか関係があるのでしょうか？

工藤さんの「メント

康太君への気持ちに気付いたなんて書いてないよ。

先生の「メント

見事な面白をありがとござります。

木下君の答え

ついに男扱いされたと思ったら秀吉といつ性別が世間に認められる事実があると知り嬉しいような悲しいような旅行だった。

先生のコメント

秀吉といつ性別を否定できない先生を許して下さい。

島田さんの答え

正直瑞希が羨ましかった。

ただ木下を男として見ていて自分を知り、いろいろ気付かされた旅行となつた。

先生のコメント

自分を見つめる事は大切なことで島田さんにとっては意義のある旅行になつたと思うのでよかったです。

霧島さんの答え

お風呂以外雄一といられて嬉しかった。

今度はお風呂も一緒に入りたい。

先生のコメント

坂本君と末永くお幸せに。

坂本君の答え

翔子についていろいろ考えさせられた。

早く俺の気持ちにけりをつけないとけないと思わされた旅行になつた。

先生のコメント

悩むことも人生なので大いに悩んでください。

先生はいつでも相談にのります。

坂本君の質問

先生、早速で悪いんだが

押した覚えのないハンコが押されている婚約届けを持つていて幼なじみに結婚を迫られている時はどうすればいいですか？

先生の答え力不足の先生を許してください。

姫路さんの答え

今回の旅行では皆さんとさらに親睦が深まつたと思います。明久くんにもたれかかるなどいろいろ大胆になることが出来たと思います。

また明久くんが言ってくれたように釣り合ひ釣り合はないは気にしないようにしようと思いました。

だから私はこれから明久くんと一緒にいられるように努力していると思います。

結果的には明久くんへの気持ちを再認識した旅行になりました。

吉井君の答え

姫路さんと密着するなどいろいろあつたが姫路さんの本心を聞けたのでよかつたと思う。

これから姫路さんと一緒にいられるように頑張りうと思いました。

先生のコメント

君達二人は付き合っていないんですか！？

一人のコメント

ぼく（私）なんかが付き合えるわけないじゃないですか

先生のコメント

もう好きにしてください

先生の総評

私は大人なので羨ましいなんて思っていません。  
だから腹いせに宿題をだしたわけではありません。

## HAROKE (後書き)

いままでお付か�ございたさ誠にありがとうござります。  
こんな駄文に付か�つていただけて本当に感謝感激です。

また小説を書く機会があればよろしくお願いします。

本当にありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6404v/>

---

バカたちの温泉旅行

2011年10月19日02時09分発行